

アメリカによる経済封鎖は継続されています。 五人のキューバ人の拘束は続いています。 革命50年のキューバ。

◆2009年は、ゲバラの二つの映画で幕開けしようとしています。CUBAPONはこの年に何を考えるのか、会員の皆さんと相談していきたく思います。

◆キューバは2008年8月から9月にハリケーンによる大被害に見舞われました。CUBAPONとしては、救援の手を差し伸べられませんでした。連帯の心だけでも届けたいと活動してきました。

かねてからキューバ大使館より『アメリカに囚われている5人のキューバ人』の一人ヘラルド・エルナンデスさんが大変な『盆栽好き』であるため、本人は囚われているが家族への友情として『盆栽』をなんとかできないか』との依頼を受け、CUBAPONは君島一字・代表委員兼事務局長が労を取り30年ものの「盆栽」を贈呈しました。

贈呈は昨年10月6日、在日キューバ大使館で行われ君島一字・代表委員兼事務局長からフェルナンデス・デ・コシオ大使に届けられました。ラルド・エルナンデスさんの妻アドリア・ペレスさんに届けられた『盆栽』は、「日本文化の忍耐、心からの誠実さを示すシンボル」として、アメリカに囚われている5人のみでなく、釈放を祈っている家族への支えとしてキューバの地で生きていくであろうと思います。この模様は10月9日付の「グランマ」で報道されました。(※グランマ紹介：富山栄子)

◆ハバナ在の是永レイコさんはREIKO TOURの代表として、多くのキューバ訪問の日本人がお世話になっていますが、CUBAPONのメンバーでもあります。2008年8月1日付グランマによると、彼女はキューバ国家評議会から「5人のための100人 (Cien por Los Cinco) 友好勲章」を授与されました。彼女はメダルにびっくりし、「自分はただ日本から来る人々がもう一度来たいという気持ちになるよう仕事をただけです。これまでのように今後も働き続けます。」と述べています。(※グランマ紹介：富山栄子)

◆「アメリカに囚われている5人のキューバ人士の解放を求める日本百人委員会」は、事件発生から10年を経ることになったこの事件の重要性をもう一度、惹起させるためアピールを発表しました。

【今後の活動予定】

キューバ・フェスティバル／日本キューバ国交樹立80年、キューバ革命50年記念

来る5月9日、CUBAPONも協賛し、同実行委員会で大イベントが計画されます。場所は埼玉県坂戸市の市文化会館。同企画はCUBAPON幹事でもある松矢さんが地元の仲間と昨年7月キューバを訪問したことから持ち上がり、1000名の大会場を舞台に、講演やキューバ音楽ライブなど盛りだくさんの内容でキューバを知り楽しむ企画となっています。詳細はCUBAPONホームページ、新規オープンの携帯サイトでもご覧になれます。

米作り支援プロジェクトが具体化されます。

昨年4月25日から『米作り支援のためのキューバ農業視察団』が、君島一字 CUBAPON 代表委員を団長に総勢8人で出かけました。同訪問団はまた、従来の友好訪問団の目的も併せ持ち、日本人移住110年を記念して日系人が多く住む『青年の島』を訪れ日系人を慰問しました。

キューバ農業省、在日大使館などとも相談しながら、何とか具体化を図っていきたく思います。

革命50年記念訪問団を11月下旬に派遣します。

今回の訪問団は、CUBAPONのみでなく、さまざまな分野のグループで一緒に出かけ、キューバ内ではテーマ別グループ別に独自のコースでキューバ体験をしていきます。詳細は6月頃発表。

キューバの今を映し出す『経済封鎖下のカリブの社会主義 part X I』(2008年版) 頒布中

昨年4月に訪問した「米作り支援とメーデー参加」の記録をまとめ、最近のキューバ事情をレポートしています。頒布価800円(送料込み)。在庫あります。

CTC(キューバ労働者中央組織) 結成70周年記念行事への代表派遣を検討中

今年の1月でCTCは70周年を迎えましたが、記念式典がメーデーにあわせて開催予定です。



上：君島・代表委員と贈呈の盆栽
下：贈呈後、大使と懇談



ヘラルド・エルナンデスさん
(囚われている5人のひとり)

IV Edition of May Day World Brigade of Solidarity with Cuba 参加呼びかけ

ICAPは第4回、メーデーキューバ連帯世界集会に皆様を招待いたします。メーデー祝賀行事に参加し、キューバの労働者や人々と分かち合うために世界各国から参加者がやってきます。プログラムでは、歴史的・文化的な場所、教育施設、社会的関心の深い場所を訪問いたします。最新の情報をもとにした講義では、現在のキューバの実情を見ることができましょう。プログラムにはメーデーの祝賀行事の後に行われる、キューバ世界連帯会議参加も含まれています。皆様のご参加をお待ちしています。

開催期間：4月25日（土）～5月10日（日）16日間

参加費用：300CUC（プログラム参加費用・宿泊費・食費含む）

キューバまでの航空券は各自負担となります。

参加条件：最低7日間のプログラム参加が必要です。

締切：3月27日（金）

そのほか詳細・お申し込みは、CUBAPON事務局までお問い合わせください。

CUBAPON 及び CUBAPON-J 幹事会。結成 15 年目を迎えて。

来る2月7日、久しぶりに CUBAPON および CUBAPON-J の幹事会を開きます。今年はキューバ革命 50 年という節目の年でもあり、キューバ“特別期”にささやかな支援・連帯を想い活動開始した CUBAPON も 1994 年 7 月に結成され今年で 15 年を迎えることになりました。今後の連帯活動について相談しましたので、随時具体化しご案内していきたいと思えます。

埼玉・坂戸で5月は燃える！「キューバ・フェスティバル」のご案内

CUBAPON 幹事 松矢文雄

「キューバ・フェスティバル」は、CUBAPON（鎌田氏）からの呼びかけがきっかけとなって企画されました。

昨年の「米づくり支援のためのキューバ農業視察訪問」に行く時に、鎌田さんから『来年は革命50周年だから川越・坂戸方面で集会ができないか』というお誘いの話がありました。その時は、私一人の力量では無理であるとお断りしました。ツアーから戻って、レポートを作成している中で日本とキューバの関係を調べていたところ、日本とキューバが外交関係を樹立して80周年であることが分かりました。その二つのことを結びつけて何かできるのではないかという気持ちが芽生えましたが、誰かがやるのであれば関わろうという程度のものでした。

7月に私の知人たち15名で「Vamos a Cuba!」（CUBAPON 協賛）という1年越しのツアー計画を実施することになっていました。これの壮行会もかねて、幹事会がもたれ再度集会の話がありました。私としては、多くの人たちにキューバのことを知ってほしいという思いだけは強くあったのですが、それでも自分から組織し企画する自信はありませんでした。

私の思いを他の人たちにうまく言葉で伝えることができなかったもので、とにかく一緒に『キューバへ行こう』と半ば強引に11日間の日程で行って来ました。CUBAPON ハバナ支部の是永氏や通訳のオスワルド氏、そしてたくさんのキューバの人たちにお世話になり、帰国した時には参加者のほとんどが「キューバ党」になっていました。そして、旅行中に集会についての話をしていたこともあってか、戻って1週間も経たない内に参加した数人に呼び出され、『坂戸で集会をやろう』という驚くべき提案がなされました。当初の目標は500人、赤字が出れば実行委員が持ち出すことを確認して、イベントの開催が即決されました。酒の勢いだけでなかったことは、数日後に市民会館を仮予約をしたことでも明らかでした。9月はじめに鎌田氏の紹介で大使館の後援を取り付け、実行委員会の組織化やイベントの内容について事務局レベルで話し合いが進められました。

副委員長が CUBAPON 千葉の方と昔活動仲間だったことや協賛出演してくれる「鳩山鼓韻の会」事務局長が実行委員に加わってくれた「キューバに自転車を送る会」の代表を知っていたりと、人のつながりの不思議さや大切さをあらためて感じるとともに少しずつ活動の輪が広がっていきました。

また、秋にはキューバにおけるハリケーンの被害の大きさが報道され、このイベントをチャリティーと位置づけることにし、収益金を復興支援として贈ることになりました。

年が明けて、ポスター・チラシ（デザインしてくれたのは、「米づくり支援のためのキューバ農業視察訪問」で一緒した亀山氏で、CUBAPON のロゴ作成者です。）が刷り上がり、いよいよチケットの販売が開始されます。

私たちは、今回のような1000名を超えるイベントなど企画したことのない者の集まりですが、全員が『キューバが好きだ』ということで一致しています。ポスター・チラシを会場近辺の公共施設や学校などに掲示し、広くキューバについて関心を持ってもらえるように宣伝広報活動をおこなっていくつもりです。会場は埼玉の地方都市ですが、坂戸市市民会館を観客でいっぱいにすることを目標に。

ホセ・フェルナンデス・デ・コシーオ駐日キューバ大使より、チラシ掲載にあたりメッセージをいただきました。『日本・キューバ両国国民間の友好のためにこのフェスティバル開催に取り組む実行委員会の連帯にたいして、私から感謝の意を表しますとともに、フェスティバルの成功を願うものです。』私たち実行委員会としても、CUBAPON の協賛を得、さらに多くの方々のご協力の下で、このフェスティバルを成功させたく決意を新たにしています。

※入場チケットは CUBAPON 事務局まで（詳細は別紙）

資料

「アメリカに囚われている五人のキューバ人の解放を求める」 10年目に当たってのアピール

1998年9月12日に、無実のキューバ人5人がFBIによりスパイ容疑で捕らえられました。依然容疑が晴れないまま長い年月が流れ、今年2008年9月12日で早くも10年の歳月が経ちます。

マイアミの裁判所において不当に重い刑が下された5人は、現在アメリカの5か所の刑務所に収監されています。公正な裁判が再度執り行われること、そして5人の釈放の実現をめざして、世界で200以上の救援組織が結成されています。

2006年10月に発足した「アメリカに囚われている五人のキューバ人の解放を求める日本百人委員会」は5人の解放のために活動を行ってきた世界の友人たちと連携しつつ、日本においても5人の収監の不当性と即時釈放の世論を少しでも広げていくことをめざしております。

10年という年月が過ぎた今、彼ら5人が愛する家族のもとへ帰れる日が一日でも早く訪れるよう、日本の地からも声を上げてゆきます。

皆さまの関心こそが、不当な裁判に光をあて、真実を明るく光のもとにさらけ出す唯一且つ最大の力であると信じています。

「アメリカに囚われている五人のキューバ人の解放を求める日本百人委員会」
2008年9月12日

資料

プレス・リリース

米国で不当に投獄されている5人の 反テロ闘士

去る9月2日、米国のアトランタ第11巡回裁判区控訴裁判所は、5人のキューバ人青年の弁護団による控訴を却下し、根拠のない不当且つ過剰な有罪判決を再確認した。5人のキューバ人青年は米国内に存在するテロ組織に反対する活動をかの地で行ったために10年前より米国の刑務所で厳しい刑に服している。

1998年に彼らは逮捕されたが、それは、長年にわたり罪に問われることなく反キューバ活動を行ってきたマイアミにあるテロ組織が策謀し実行していた計画や活動について、キューバ政府が米国のFBIに提供した情報や証拠を悪用して彼らを逮捕したものであった。

彼ら5人の青年の使命は、それらのテロ組織に潜入し、長年にわたり多くのキューバ人の命を奪ってきた犯罪的な行為を事前に知り、阻止し、無力化することであった。その使命は米国政府や米国の安全を脅かすような行為を含むことは一切なかった。

マイアミで行われた裁判は、最初から然るべき法的公平性に欠け、異常な政治性を帯びたが、それは裁判が行われた場所によるものであった。陪審員の名前は公表されるので、彼らに対する圧力や脅迫までが行われたことは明らかだった。

これらマイアミのマフィア・グループの行動を特徴づけてきたキューバ革命に対する本能的憎悪は、キューバ系国会議員と結びつき、また一方的な激しい報道キャンペーンと相まって、検察がそれら青年達に対する様々な罪状を捏造することを助けた。それらの罪状の中には、米国の安全保障に対する行動も含まれていたが、それが裁判で証明されたことは一度もなかった。

弁護側はヘラルド・エルナンデス、ラモン・ラバニーノ、

レネ・ゴンサレス、フェルナンド・ゴンサレス、アントニオ・ゲレロの5人の無実を証明する十分な明らかな証拠を提出した。しかし、裁判所は最低で15年、何人かの被告に数次の終身刑を言い渡した。

この裁判が異常な政治性を帯びたことが、検察の側でも、裁判所の側でも、アトランタ控訴裁判所まで含めて、裁判の行方に決定的な要因となった。

逮捕の時点から、後には判決の服役においても、これら反テロ闘士たちは最も基本的な人権までを侵害する残酷で報復的な扱いの犠牲となった。

彼らは理由もなく長期間独房や懲罰房に閉じ込められた。それぞれ違う州の様々の連邦刑務所に収容されたため、然るべき合法的援助や家族の援助が非常に困難となった。これは、アメリカ合衆国の刑務所管理規定を無視した扱いである。10年の間、米国の入国管理事務所はレネ・ゴンサレスとヘラルド・エルナンデスの妻の面会のためのビザ発給を拒否し続けた。

国連の不当拘禁に関する作業部会は、この5人の拘禁・投獄を不当、不法なものとし、不法、不当な収監を終わらせ、合法性を回復するよう求めた。

今我々がこの不正義に反対し「5人」の解放を求めて行っている告発が効果を生むためには、ひとえに国際世論に然るべき情報を届け、この裁判が政治的操作の結果、歪曲されたことを知ってもらい、人間の尊厳を尊重するそれぞれの国々で「5人」のための正義を要求する叫びが湧き上がることがどうしても必要である。

この問題についての詳細は以下のホームページを参照にしてください。

<http://freethecubanfive.jp/> (日本語)

<http://lovecuba.org/> (日本語)

<http://www.antiterroristas.cu/> (英語)

<http://www.granma.cubaweb.cu/miami5/los-heroes/index.html> (スペイン語)

2008年9月12日 キューバ大使館

昨秋、3度の大型ハリケーン 被害甚大！

復興支援のカンパをお願いします。

キューバのフィデル・カストロ前国家評議会議長は国営メディアに掲載した論説で、今年8月と9月に大型ハリケーンに見舞われた被災地の復興が、11月9日の「パロマ」によって遅れるとの見解を示した。カストロ前議長によると、8月の「グスタフ」、9月の「アイク」のハリケーン2つによる被害総額は94億ドル（約9310億円）で、国内の農作物の3分の1近くが台無しになったという。（2008.11.10 CNN より）



カンパ金振込先：日本キューバ連帯委員会

郵便振込み：00170-2-195919

銀行からの振込みの場合：ゆうちょ銀行 019店（当座）0195919 ニホンキューバレンタインカイ